

## 令和10年度島根県立大学人間文化学部・島根県立大学短期大学部

かみあり入試（総合型選抜） 社会人・学士 帰国生 私費外国人留学生特別選抜 人間文化学部地域文化学科3年次編入学 対応

### 国語読解・小論文試験の見本

この見本は、県大松江キャンパスにおいて令和10年度入試から実施する「国語読解・小論文試験」がどのような試験か、具体的に理解していただくために作成しました。

末尾に解答例を付けています。

配点は200点で、試験時間は120分を予定しています。

受験生の皆さまの参考になれば幸いです。

令和〇〇年度島根県立大学人間文化学部・島根県立大学短期大学部

総合型選抜 社会人・学士 帰国生 私費外国人留学生特別選抜

国語読解・小論文試験

【問題】次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

天気予報で「今日の降水確率は 30%です」とあったら、傘を持って出かけますか？ 20%だったら？ 70%だったら？ 降水確率がどうであれ、傘を「持っていく」か「持っていない」か、行動の選択肢は二つしかない。傘を 30%だけ持っていくことはできないのである。

人間は二分法が好きだ。「陰と陽」「男と女」「右派と左派」「上と下」「敵と味方」「我らと彼ら」などなど、どの文化にも二分法はあふれている。現実には、たいていの物事はもっと複雑で、そんなにきれいに分かれるものでもない。しかし、人間が最終的な意思決定をするときには、多くの事柄が、傘を「持っていく」か「持っていない」かのように①二者択一となる。そうすると、人間にとって、そもそもいろいろなものを二つのカテゴリーに分ける方が、心地よいのではないだろうか？

たいていの物事を、三つに分けたり四つに分けたりするのが当たり前、という文化はないのではないか？ 「ない」と自信を持って言えるわけではないのだが、非常に少ないと思う。

ところで、②商品を買うとき、たとえ自動車などの高価なものであっても、その商品の機能その他に関する情報が、たくさんあればあるほど適切な判断ができるかという点、そうではない。また、人は、商品に関する情報がうんとたくさんあればあるほどうれしいということもない。

情報が少な過ぎると困るのだが、あり過ぎると、それも嫌う。これも、どうせ「買う」か「買わない」か、行動の選択肢は二つしかないのだから、③適当なところで腹をくくりたくなるのだろう。

④選挙でも、結局はこの候補に「投票する」か「投票しない」か、選択肢は二つである。しかし、支持・不支持がよほど明快でない限り、人は、普通は迷うだろう。そして、候補者の意見その他の情報が多くあればあるほど、決めがたいと思ったり、あちらの候補が 40 点、こちらの候補が 60 点ぐらいに感じたりして迷うに違いない。

こうして見てくると、人間は、情報がたくさんあると二者択一の判断をしにくくなる。そして、そんな状況に陥るのは不快で、簡単に二者択一で判断したいという欲求がある、と言えそうだ。

学問の営みは、いろいろな問題とその状況に疑問を差し挟み、対象をよくよく調べることで、二分法で単純な解釈はできないということを示し続けてきたのだと思う。⑤人種という単純なカテゴリーは存在しない、男と女、と明確に分けられるものでもない、意見の相違を「敵と味方」と単純に分けてしまうと本質を見失うなどなど。

このような学問の成果を本当に取り入れるためには、立ち止まってじっくり考えなければならない。ところが、商品の説明があまり多すぎると嫌われるように、人間は、あまり多くの説明をされることは嫌いなのだ。とすると、じっくり考えて学問の成果を取り入れるのは、人間にとって、はなから心地よい作業ではないのだろう。

しかし、そこをなんとかというか、いやでもじっくり考えねばならないという「良識」があった。少なくとも少し前までは、⑥これを大きく壊したのがネットだろう。⑦ネットの世界は、飛び交う文章も短いし、同じ考えを表明する仲間たちだけで意見を増幅し合うので、二分法と二者択一が専横する。ネットの世界では、長々とした説明は不人気、単純明快な主張で人々に二分法を押し付ける。というか、二分法であっさり決着をつけたいという人々の本来の欲望に、すっかり乗っかっているのだろう。

極端な意見は昔からあった。それを、ある意味で爽快だと思ふ風潮も昔からあった。しかし、そういうふうな感情に任せてしまうのはいけないという歯止めが、社会のどこかに確かに存在した。ネットは、そんな歯止めをなくし、なくてもいいのだと思わせている。

そんな影響もあってなのか、ともかく短い時間で、短い文章で自己アピールせよ、というメッセージが広がっている。そんな簡単に表せるものなんて、本当はないのに。

この先には何があるのか？ 学問はウザイ、長い説明は聞く耳持たない、となったら危険である。もうなっている？

出典：長谷川真理子『モノ申す人類学』青土社、2020年（一部改変）

問1. 下線部①「二者択一」の意味を20字以内で答えよ。なお、文末は「こと」とすること。

問2. 下線部②の文に含まれる事柄として適切ではないものを、次の選択肢から二つ選んで、記号で答えよ。

- ア. 自動車は高価なものである。
- イ. 商品の機能その他に関する情報が多ければ適切な判断ができる。
- ウ. 商品の機能その他に関する情報は少ないほど良い。
- エ. 商品の機能その他に関する情報が多くても適切な判断ができるとは限らない。

問3. 下線部③「適当」の文脈上の意味として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア. 端的
- イ. ほどよい
- ウ. いいかげん
- エ. 最も適切

問4. 下線部②④の「商品を買うとき」や「選挙」の例を通して筆者が述べたいことを70字以内(句読点を含む)で探し、最初と最後の5字を抜き出して答えよ。

問5. 下線部⑤の文の最初に接続詞を入れるとしたら、どのような接続詞が最も適切か。次の選択肢から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア. しかし
- イ. そして
- ウ. なぜなら
- エ. 例えば

問6. 下線部⑥「これ」が指示する内容を25字以内(句読点を含む)で抜き出して答えよ。

問7. 下線部⑦の文について、短い文章が飛び交い、同じ考えを表明する仲間たちだけで意見を増幅し合うことが、二分法と二者択一の専横につながるのはなぜか。その理由を100字以内で説明せよ。なお、「専横」とは「他の考え方を無視して好き勝手に振舞うこと」を意味する言葉である。

問8. あなた自身は「二分法」をもとに判断することについてどう考えるか、本文で挙げられている例と同じように「二分法」となりそうな一組を具体例として挙げながら、800字程度で論述せよ。

## 解答例

問1 二つの選択肢のうち一方を選ぶこと (20点)

問2 イ・ウ (10点×2点)

問3 イ (10点)

問4 人間は、情～欲求がある (10点)

問5 エ (10点)

問6 いやでもじっくり考えねばならないという「良識」 (10点)

問7 短い文章は単純明快で二分法的な主張になりやすく、同じ考えの仲間たちだけで意見が交わされることによって、二者択一的に物事を判断してはいけないという歯止めがなくなってしまうから。 (20点)

問8 解答例省略 (100点)